

## 水槽内比重分離方式で 180°視点を変えた産廃処理に挑む



竹内光男 社長

三州建設株式会社

(愛知県新城市)

収集運搬、中間処理、最終処分を一貫して行っている三州建設を訪ね、竹内社長に会社の事業展開や新しい試みなど、興味深いお話しをお聞きしました。

— なにか新しい建設廃材の処分法を考案されたと聞きましたか…。

竹内社長（以下、竹内に略）『当社は土木と環境整備という二つの部門でやっているのですが、まったく別に頭脳（ブレイン）がおりまして、そちらで新しいプラントのレプリカモデルを作っているんです。新城保健所の専門員にアドバイスを頂きながら、建設廃材を水槽に沈めて水に浮くものと沈むもので分別する方法を始めています。“水槽内比重分離方式”と呼んでいます。千葉工大で環境工学に取り組んだりして非常に産廃に明るい方とジョイントして進めています。2000坪の池を購入しまして、その池に水槽を作って建設廃材を沈めます。すると木など軽いものは浮いて、金属類は沈みます。そこで分別して集められた細かい木材系の廃材は、プレスして住宅メーカーの床下温熱新建材として使えるということで、限りなく100%に近いサイクルが可能になりそうです。』

— 新しいプラントを作るという意味では、地元との連携が不可欠だと思いますが。

竹内『ええ、その点には特に留意しています。この分別を計画した時もまず、保健所に相談して事前に問題がないか検討しましたし、池につながる道は地元の森林組合と共同使用をすることで話し合いをつけ、地域住民に向けての説明会も先日行いました。また、廃棄物処分の現場を見ていただいて直接理解していただくということで体験学習にも積極的に協力してい

ます。8月には地域の中学生を受け入れ、破碎機に乗せたり、処分の現場を体験してもらったりしました。その体験学習が評判になって、今度は小学校からも依頼がありました。道徳の時間でごみの問題を考えたらしいんですね。』

— 産廃業務に対する姿勢を教えてください。

竹内『僕は、焼却処理は今後どんどん難しくなっていくと思っています。建材などにもホルマリンなどが壁紙接着剤で使われていますから有害なガスが出ます。煙は環境破壊に確実につながりますから、ごみを焼くのはやめよう、発想を変えて廃棄物を処分しようというのが僕の考え方です。うちは炉は持っていますが一度も火を入れたことはありません。混合廃棄物がうまく分別出来ない限り、有害な煙が出ないという保証が持てないからです。地域住民の理解を第一と考えて今は、水槽内比重分離に全力を注いでいます。』



社名/三州建設株式会社 所在地/愛知県新城市大海字中貝津16-6  
代表者/竹内光男 創業/昭和58年 従業員/16名 TEL05362-5-0062  
事業所/本社・北部事業所・鳳来町副川最終処分場・鳳来町富保建設廃材分別処分場  
営業種別/収集運搬 中間処理(破碎) 最終処分 取扱品目/建設廃材